

様なお子さんに多い傾向です。こういう方は比較的やり易く、馴れればどん／＼遊べるお子さんですから、私共は早く、遊びの面白さを知らせ馴れさせる様につとめる事が大切です。入園最初ですから、家庭の延長の様な自由遊戯を考へて導く事です。

「二」の場合。これには、(1)大人つぼくて無邪氣に遊ばぬ子供、(2)氣が弱くお友達においてきぼりをさせられる子供、(3)用心深く、自信のつくまでは遊ばぬ子供。とあります。(1)のお子さんは年寄育ち又大人の間の育ちのお子さんに多く、そんな事してもつまらない、馬鹿くさい、といふ氣持からで、かういふお子さんは一般に智能が進んでゐますから、種々理屈をつけて自分でその遊びをつまらなくしてゐるのです。ですから、淡い子供だましの遊びでなく頭も使ふ高級な遊びを好むわけです。先づ體力の遊びから入つてゆくのはどうでせう。それも他の人におとらぬそのお子さんに出来る遊びでないと、負ける事に不快を感じて嫌になりますから。そしてお友達との親しみを作ります、と日に／＼自由遊戯へ自分から飛込めるお子さんになります。(2)のお子さんは先生が手を取り、お友達の仲間に入れてあげる様に心がける事により解決がつきせう。(3)の場合。かういふお子さんは、「遊びませう」と誘導的に種々手をかへ、品をかへても頑強に嫌とはねのけられます。自分がもうよしと見通しがつくまでは仲々出馬しませんからまあ時の来るのを待つのです。しかし、いつも、誘ふ事を忘れてはなりません。

「三」の場合。は我儘から来る事です、お友達が自分の自由にならぬので遊ばないのと、先生を独占したい氣持からとあります。

前者は、先生がのまれてはいけませんから、お友達と團體的に遊ぶ機会を多く作り、その快感を味はせ、お友達をしりぞけた場合などはきびしい位、いさめねばなりません。後者は、先生と二人で遊んでゐる所へお友達でも入つてくると、すゝつといなくなつてしまひます。さういふお子さんには、遊びに充分興味を持たせ、お友達が入つた事により興味を薄くさせたりするのはいけない、却つて面白い事を味はせる様指導者が導けば次第になほると思ひます。かう見ますと、全然遊びの嫌ひなお子さんはいない筈です。ですから、ぼんやりとお部屋の出口に立つてゐるお子さんを、はやく楽しい幼児の自由遊戯に入らせ、協力した楽しみ、協力したよろこびを味はせる様心がけたいものであります。

遊 戯

古澤 静子

音楽と結び、體力の基調となり、その中に個人として全體として繋げられなければならないものを持つた遊戯でした。

時節にのぞんで、「春」「たんぼぼ」「櫻のトンネル」を考へてみましたが、國民學校への喜びと共に、なつかしい幼稚園でのおしまひの時間は、萌え出る若芽の様な潑刺とした身心の躍動であると思ひます。

春 日本幼稚園協會發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載。
隊形は一列圓形。

「前奏」 そのまゝ聞く。

一節

「ぼか／＼春がやつて来た」 全生連手して二呼間に一歩づゝ圓心に向つて進み、「やつて来た」で、その場で膝を高くあげ足踏みをし、「た」の時には、兩足を揃へてとまる。

「可愛い桃がふくらんで」。「可愛い桃が」で兩手を横から前にもつてゆき、兩掌をふくらませて合はせ、「ふくらんで」で兩手を離して體側に下しながら、互に、隣生の肩にかけ、「で」の時にそのまゝ一同腰を下す。

「に／＼／＼笑顔で云ひました」 しゃがんで兩手を肩にかけたまま、に／＼／＼と二呼間に二回づゝ頭を左右に振る。

「もう春ですよ」 二呼間で肩にかけた手を離し、左手を口もとにつけて左生の方を向いてお話をする様な姿勢をとり、次の二呼間にその手を下して正面を向く。

「春ですよ」 同様二呼間に、右手で右生に向つてお話をする様な姿勢をとり、次の二呼間に正面をむく。

「間奏」前奏の部分を間奏、後奏として用ひ、この時一同立ち上つて連手し、もとの位置に後退する。

二節

「ぼか／＼春がやつてきた」 一節と同動作を行ふ。

「優しい風がそよ／＼と」 圓心に進んだ位置でとまり、兩手を上舉して風の様に左右に振り「で」の時に兩手を下して互に隣生の肩にかけると同時に一同腰を下してしやがむ。

「小さなお花に云ひました」 一節の「に／＼／＼笑顔で云ひました」と同動作。

「もう春ですよ。春ですよ」 一節と同動作。

「間奏」 一節の終りの様に一同立ち上り、連手して後退する。

三節

「ぼか／＼春がやつて来た」 一節と同動作を行ふ。

「お緑の上でお日様が」 兩臂を曲げて兩手を顔の横にあげ、兩掌をきら／＼と振りながら、各自の廻りを左に一廻りする。そして「が」の時に一、二節と同様、兩手を隣生の肩にかけながら一同腰を下す。

「坊やにそ／＼と云ひました」 一節の「に／＼／＼笑顔で云ひました」と同じ動作を行ふ。

「もう春ですよ。春ですよ」 一節と同じ動作。

「後奏」 間奏と同様、連手して後退する。

たんぼぼ 日本幼稚園協會發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載。

隊形は二人づゝ向き合つて行ふ。

一節

「咲いた／＼向き合つたまゝ、二呼間に各自兩手を横から前に出し、兩指を開いたまゝ、兩掌を合せてたんぼぼの花を作る。次の二呼間に兩手を體側に下す。

「たんぼぼが」 今の動作をもう一度行ふ。

「黄色のお顔をそつと出して」 再び兩掌を合せてたんぼぼの花を作り、二呼間に一回づゝ頭を左右に曲げて花の左右から顔ののぞかせ、互に相手を見る。

「こちらを向いてはに／＼と」 兩生共、左足左手を前出し、左足は踵をつけて足尖を上になげ、左掌を顔前にに／＼と左右

に振る。

「次の八呼間」手足を交代し、右手右足を前出して同様の動作を行ふ。

「にほひをおくつて笑ひます」。「にほひを送つて」で互に兩手をつないで左に一廻りし、「笑ひます」の時にとまつて、向き合つたまゝ互に兩掌を七回たゞき合せる。

二節

「咲いたくたんぼぼが」一節と同動作を行ふ。

「垣根のそばのたんぼぼが」一節の「黄色のお顔をそつと出して」と同じ動作。

「てふくさんをやすませて」互に左手をつなぎ、右手を伸ばして上下に軽く振りながら、左に一廻りする。

「次の八呼間」右手に握りかへ、左手を伸ばして上下に軽く振りながら、右に一廻りする。

「二人で仲よく話します」一節の「にほひをおくつて笑ひます」と同じ動作を行ふ。

櫻のトンネル 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載。

「櫻のトンネル母様と、くゞつて楽しい幼稚園」一列圓形を作り、圓周上任意の二人が左右を向いて向き合ひ、兩手をつないでトンネルを作る。そのトンネル生を中心にして圓周を二側に分け、各側共、トンネル生の方をむく。そしてトンネル生の隣生を先頭に、兩側同時に、外側より二列になつてトンネルをくゞり真直ぐ進む。トンネル生は、最後につゞく。全生がくゞり終つた時、二列縦隊が出来る。

「昨日のやうに思へるが」二列のまゝ向き合つて、各列、互ひに隣生と連手し、後力に開いて再び一列圓形をつくる。

「もう一年もたちました」始めの二呼間拍手をして、次の二呼間に、掌を反して兩手を擴げると同時に、踵をつけて、足尖を上げ、左足を前出する。この動作を左右の足、交互に四回行ふ。

「明日から大きいお室です」全生兩手を伸ばして肩の高さに上げ、駆足で圓周を左に進む。

「あゝうれしいな」四呼間、そのまゝ左に駆足で進み、次の四呼間、立ち止つて、その方向に向つて、やゝ體を前傾し三拍手する。

「うれしいな」今の動作を、右の方向に行ふ。

觀察

清水 光子

幼稚園も三月の聲をきくといろ／＼な行事が多いからその楽しみに壓倒されて落付いた幼稚園生活がまたげられない様に氣をつけ度いものである。

芽 北國や山國の雪はまだ深いかも知れないけれど暑さ寒さも彼岸までとやらで春の足音がそこにきこえてゐる三月、木や草の芽が、氣がついて見ると驚く程大きくなつて、あるものは綠色にさへなつてゐる。「こんなに芽が大きくなつてゐるのね」と子どもに知らせてみせる。この木も、あの木もといふ風に、又花壇の草の芽もみる。そして小さいけれど強いはいゝ芽、これから伸び